

# 福大病院ニュース

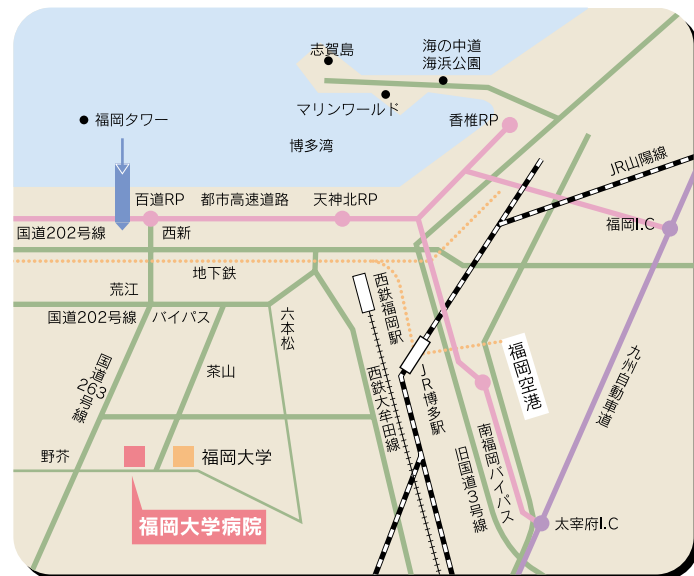
## 福岡大学病院診療科一覽

診療科名	血液・糖尿病科	消化器科	腎臓内科	循環器科	呼吸器科	神経内科	健康管理科	精神神経科	小児科	小児外科	外科第一	外科第二	整形外科	形成外科	形成外科	形成外科	脳神経外科	心血管外科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻酔科・ペインクリニック	歯科口腔外科
	診療日	毎日	毎日	月・火・水・金	毎日	毎日	毎日	月・金	毎日	毎日(月・水・金午後のみ)	月・水・金	火・木・土	月・火・水・木・金	月・水・木・土	※予約制 月・木	月・水・金	火・木	毎日	※予約制 月・火・水・金・土	※予約制 月・火・水・木・金	火・木	月・火・水・木・金	月・水・金	月・火・水・木・金	月・水・金	月・水・金		

### 【診療受付時間】 (休日除く)

※休診日：日曜・祝祭日、盆休(8月15日)、年末・年始(12月29日～1月3日)  
 初診：(月～金) 8時20分～14時 (土) 8時20分～11時  
 再診：(月～土) 8時20分～11時 ※産婦人科の初・再診受付は8時20分～11時

## 交通のご案内



### 天神から

天神コア前バス停(7B)乗り場、あるいはダイエーショッピングセンター前バス停(9)乗り場で、福大病院経由の14番、114番バスにご乗車し、福大病院前で下車してください。  
 (所要時間 約30分)  
 ※14番には福大病院を経由しないバスがありますので注意してください。

### 博多駅から

博多駅前バス停(A)乗り場で18番あるいは福岡交通センター1F(4)乗り場で福大病院経由の14番、114番にご乗車し、福大病院前で下車してください。(所要時間 約40分)

### 六本松(九大教養部前)・別府2丁目バス停から

14番、18番、114番で福大病院経由のバスにご乗車し、福大病院前で下車してください。(所要時間 約15分)

### 西新から

脇山口バス停で、95番の福大病院経由のバスにご乗車し、福大病院前で下車してください。(所要時間 約30分)  
 ※昼間約40分間隔で運行していますのでご注意ください。

●天神、博多駅および六本松、別府から福大行き西鉄バスが運行されていますが、福大前バス停(本部)と福大病院は、徒歩で15分程度離れています。

## 病院付近交通ご案内



## 福岡大学病院

〒814-0180  
 福岡市城南区七隈7丁目45-1  
 TEL (092)801-1011(代)

URL : <http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/hosp/>



## 福岡大学病院の基本理念 あたたかい医療

- 高度先進医療の指導的病院
- 健康のための情報発信基地
- 地域に開かれた中核的医療センター
- 社会に必要とされる優れた医療人の育成
- 社会のニーズに応える患者中心の医療の提供

## ■ 患者さまの権利について

医療は医療者と患者さまとの信頼関係で成り立っています。患者さま一人一人が医療の中心となり、以下の権利と責任(患者さまの権利に関するリスボン宣言)があることを福岡大学病院の職員一同は認識します。

1. 患者さまは常に人間としての尊厳と、差別のない安全で最善の医療を受ける権利があります。
2. 患者さまは医師や病院あるいは保健サービス施設を自由に選択し変更する権利があります。
3. 患者さまは検査や治療について、その目的、もたらされる結果などについて、十分に説明を受け、納得の上で選択あるいは拒否の決定を下す権利があります。
4. 患者さまは自分自身に関する情報を開示され、自己の健康状態について十分な情報を得る権利があります。
5. 医療上得られた個人の情報やプライバシーが守られる権利があります。
6. 患者さまは健康について保健教育を受ける権利があり、自分の健康に対する自己責任があります。

血液・糖尿病科  
講師

高田 徹

## 感染症：旧くて新しい病気の主役

### 【甦った感染症の脅威】

ある新聞社のアンケートで20世紀に人間の生活を最も豊かにした物は何かという調査がなされたとき、最も多かった回答は「抗生物質」でした。20世紀前半まで人類にとって最大の脅威であった病気は感染症でしたが、公衆衛生や栄養状態の改善、抗生物質による化学療法の進歩、ワクチンの開発と普及により1960年代に入ると感染症の患者数は激減しました。中でも20世紀初めの発見後、加率的に開発され普及した抗生物質は、「魔法の弾丸」の様に多くの感染症のコントロールを可能とし、その結果、感染症克服の目処がついたとの錯覚が生まれ、人々の関心も急速に癌や生活習慣病へと移っていきました。ところが、1970年ごろから「終焉した」とさえ言われた感染症が徐々に再び勢力を増し、その後新たに出現した感染症だけで、エイズ（後天性免疫不全症候群）や腸管出血性大腸菌O157感染症から狂牛（プリオン）病、24時間風呂で問題となったレジオネラ症、そして記憶に新しい重症急性呼吸器症候群（SARS）まで、今日までに30以上に至っています。特に、中国やカナダなどで大流行をみたSARSはかつての伝染病の恐怖が決して過去の歴史では無いことを実感させました。これら「新興感染症」に加え、結核などすでに制圧されたと見られていたいわゆる「再興感染症」も台頭し、21世紀は再び感染症が病気の主役となる可能性を指摘する専門家も少なくありません。

### 【何故感染症が再び増えてきたのか】

何故これらの新興感染症や再興感染症が増えてきたのでしょうか？ 新興感染症の多くは、元々野生動物が保有していた微生物のヒトへの感染によるものだといわれています。地球温暖化や自然環境の破壊による生態系の破壊やグレルブーム、ペットブームなどによる野生動物とヒトの距離の接近が引き金となり、人口増加や都市化による人間の集中、交通機関の発達によるヒトやモノの大量迅速移動が、短時間で感染症を世界各地へ拡散する媒介となっているわけです。「ジェット機で多くの人が往来する時代になってから、せきやくしゃみを介して人から人へ飛沫感染するはじめての新興感染症」といわれるSARSも、50年前であれば一地域の風土病で終わっていたかもしれません。また、抗生物質の濫用は微生物そのものの生態系を破壊し、いわば「魔法の弾丸」の「弾痕」ともいべき薬剤耐性菌を多く作り出してきました。反面、昨今新しい機序の抗生物質の開発は鈍り、如何なる抗生物質も効かない「スーパー細菌」の出現は半ば現実のものになってきています。地上の生命誕生初期から存在し、過酷な環境に対応して今日迄生き延びてきた微生物にとっては、抗生物質も単なるストレスの一つに過ぎなかったのです。一方、経済発展に伴い衛生状態が向上すると、人間の微生物に対する抵抗力は低下し感染に対して脆くなるとともに、高齢化や医療の進歩は生体防御機構に障害をきたした高齢者や免疫不全者の増加を招くことになりました。このように、感染症の増加の背景には、人間が生活の便利さや快適さ、長寿化を追求してきたツケともいえる面があり、いかに社会・科学が進歩しようと、すべての感染症を完全に制圧することは錯覚にすぎないことを覚えておかなければなりません。

### 【正しい知識を持って冷静に適切な予防を】

それでは如何にして感染症から身を守るべきでしょうか？ 当然のことですが、十分な休息を取り良好な体調を保つことは極めて大切です。SARSの犠牲者も、糖尿病など基礎疾患を持つ免疫力の低下した高齢者に多かったことが明らかになっています。手洗いは感染症予防の上で最も基本かつ大切な予防処置です。不潔なものに接触した後や食事の前後には手洗いをを行う習慣を励行したいものです。外出時にはうかひの励行や感冒流行時にはマスクの着用を心がけましょう。逆に、自分が風邪を引いたりして病院へ罹ったり、お見舞いをする場合には免疫の弱った周囲の人にうつすことが無い様、マスクをしたり、面会を控えたりする等の配慮が望まれます。また、人間は常在菌という微生物と共に生きており、過度な清潔志向は無意味なばかりでなく、微生物に対する抵抗力を弱める場合もあることが明らかになっています。感染予防の上で何より大切なことは、正しい知識を持ってパニックに陥らず適切な予防処置を取る事です。インターネットの発達で感染症の拡大を防ぐ上で大きな役割を果たしています。国立感染症研究所感染症情報センターのウェブサイト (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>) 等を利用し、正しい情報・知識を得ることも有用です。

### 【感染症専門医の業務】

我々血液糖尿病科感染症専門医は、内科疾患としての感染症の診療から他科疾患に合併した感染症のコンサルテーション業務迄、小児感染症を除く感染症疾患全般を対象に外来・入院を問わず診療致しております。

感染症を予防するポイント	
・	体調に気をつけて十分な休息を取りましょう。
・	手洗いを励行しましょう。
・	生ものに注意しましょう。
・	虫に注意しましょう。…特に蚊、ハエ、ダニ、ノミ
・	ペットからうつる病気があることも知っておきましょう。
・	性感染症には気をつけましょう。
・	予防接種を受けましょう。
・	外出時のうかひの励行や感冒流行時のマスクの着用をこころがけましょう。
・	一般健常人における過度の衛生志向は逆に抵抗力を弱める場合があります。

### 曜日別外来診療担当医表

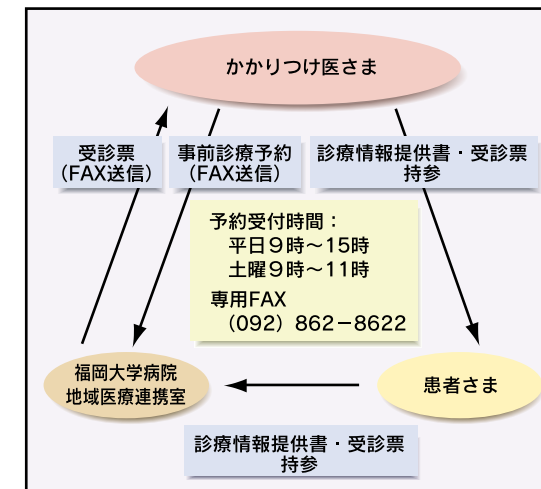
平成16年9月1日現在

		月	火	水	木	金	土
血液・	初診	高松	浅野	荻本	小野 鈴木	田村 木村 小河	一瀬 明比
糖尿病科	再診	一瀬	小河(午後)	鈴木 安西 木村(午後) 吉田(午後)	荻本 熊川(午後) 明比(午後)	田村 高松 久野(午後)	鈴木 工藤 小野(午後)
	感染症(初診)	石川	高田	石川	高田(1・3・5週) 石川(2・4週)	高田	高田
	医療相談	高松(午後)	鈴木(午後)	田村(午後)	一瀬(午後)	鈴木(午後)	鈴木(午後)
							当番医 鈴木 明比(1週) 安西(2・4週) 荻本(2週) 工藤(3週)

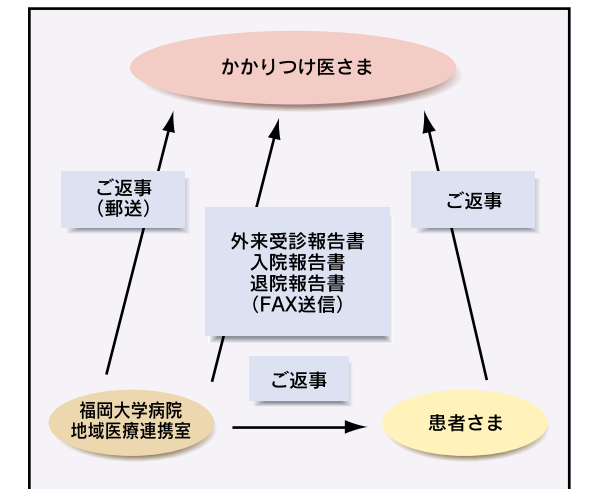
## 地域医療連携室の紹介

### 医療連携（事前予約申込）の手続きの流れ

#### 1) 受診までの流れ



#### 2) 受診後の流れ



地域医療連携室 電話 (092) 801-1011 内線 2888 or 2889  
FAX番号 (092) 862-8622

### 地域医療連携室の関連書式のご案内

#### 地域医療連携室ホームページ

#### URL address

<http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/hosp/renkeisitu/renkeisitu.htm>

上記のアドレスに、関連書式をダウンロードできるサイトを設置しております。どうぞご利用下さい。

事前診療予約申込書 (FAX) 専用紙及び、診療情報提供用紙は、ご連絡があれば無料でお届けいたします。